

兵高教組

調査情報

2018年4月2日

1号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745

FAX : 078-351-3185

URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

「県教委は教職員の命を軽視するのか」と職場の声 ガン治療中の職員へ異動を内示 職場同僚から県教委への不安と怒りの声、医師からも疑問視

3月20日、県教委は本人の病状を顧みず、2016年4月に開腹手術、7月には別部位のガン細胞除去の手術を終え、6週間の放射線治療後、現在も治療中の職員に、初任から5年という理由で異動の内示をだしました。本人と同僚からの強い要望で、校長も内示撤回を県教委に申し入れましたが、県教委は異動を強行しました。

●機械的な異動の問題点

1. 健康、家庭事情も考慮せず一方的

11月の人事異動の相談の際、当該教員は、校長に、自らの体調と今後の治療計画のこと、高齢の家族の介護のことを書面で提出しています。書面には「病気治療のためにはストレスがいちばんよくないと言われているので、もうしばらく今の環境を変えずに働くことを希望」と記載されています。県教委はこのような事情をどこまで把握・考慮していたのでしょうか。

ガン手術をされた主治医は今回の異動を疑問視しています。県教委は医師に電話で確かめるようなことはしたのでしょうか。県教委は、異動を強いることで、ガンが再発する等の健康被害が出た際、どう責任をとるつもりなのでしょう。

県教委の『公立学校教職員異動方針』（以下『方針』）には、留意事項として、長期療養中の者は原則として異動をおこなわない、としています。この人事はその趣旨とは矛盾しないのでしょうか。

2. 「育成の観点」からの異動なのか

当該校で今年度、退職者を除いて異動するのは、当該教員だけです。当該教員と同様に初任から4～6年の方が他に3人おられます。うち、2人は異動を希望されましたが、異動とならず、残留を希望した当該教員にだけ異動の内示がでました。『方針』には「初任者については、育成の観点から配置及び異動を計画的に行う」とあります

が、ガン再発の不安を抱えた教員に、異動という大きなストレスを与えて、どう「育成」していくのでしょうか。

●職場の教職員から県教委に不信感

今回の内示について、当該教員の同一校職員（組合員のみならず）は、県教委への不安と怒りを感じています。「命を軽視している」「我々は県教委の駒なのか」と、校長に人事内示の撤回を求める行動をしたと聞いています。

県教委は、当該教員に通勤距離など「配慮した」としていますが、当該校のほぼ全教員が、今後の当該教員への働かせ方、配慮の仕方、健康面に注目していることを知るべきであり、その責任が問われています。

●「私みたいな人が二度と出ないように」

『方針』には「教職員が使命感と高い倫理観を持って職務に専念し、「こころ豊かで自立した人づくり」に向けた特色ある教育を充実させ、児童生徒が安心して学べる魅力ある学校づくりを家庭・地域と連携して推進するための人事配置を行う」とありますが、そうなるのでしょうか。

当該教員は、異動によってガンが再発する恐怖感を抱きつつ、非常に辛い思いをされています。「私みたいな人が二度と出ないように、今回のことを広く知らせてほしい」と語っておられます。